

第 16 回 SPring-8 選定委員会議事概要

1 日 時：平成 25 年 2 月 14 日（木）13：30～15：30

2 場 所：東京ステーションコンファレンス 605-A 号

3 出席者：[委 員] 佐々木聡（委員長）、坂田誠、雨宮慶幸、鈴木謙爾、尾嶋正治、
片桐元、金谷利治、栗原和枝、尾形潔、中川敦史、水木純一郎、
山田和芳
[JASRI] 白川哲久、熊谷教孝、野田健治、鈴木昌世
[オブザーバー：文部科学省] 原克彦、宮嶋克彰
[オブザーバー：独]理化学研究所] 根本光宏
[事務局] 牧田知子、坂川琢磨、田口哲也

（以上、敬称略）

4 配布資料：

資料選 16-1：第 15 回選定委員会議事概要（案）

資料選 16-2：2013A 期利用研究課題審査結果について
別冊 2013A SPring-8 利用研究課題審査結果リスト

資料選 16-3：平成 25 年度後期（2013B 期）の SPring-8 利用研究課題の募集および選
定について

資料選 16-4：広エネルギー帯域先端材料解析ビームライン及び兵庫県 ID ビームライ
ンの中間評価の評価結果について

資料選 16-5：革新型蓄電池先端科学基礎研究ビームラインの変更専用施設設置実行計
画書の審査結果について

資料選 16-6：サンビーム ID ビームラインの改造計画の審査結果について

資料選 16-7：第 29 回利用期（2012A）における特定放射光施設のうち研究者等の共用
に供する部分の利用実績について

資料選 16-8：パワーユーザーの中間評価の結果について

5 議 事：

1) 開会

開会にあたり、JASRI 白川理事長より挨拶があり、2012B 期のユーザー運転を完了し、
年間 4200 時間のビームタイムの供給を行ったとの報告の他、本日の議題の紹介があった。
次に文部科学省量子放射線研究推進室原室長の挨拶があり、SPring-8 の機能維持の為の
老朽化対策費を補正予算で申請していること。また、文部科学省科学技術・学術審議会が
実施する 5 年に一度の SPring-8 の中間評価の準備を行っていること等の報告があった。

2) 前回議事概要の確認等

前回、第 15 回 SPring-8 選定委員会の議事概要案は承認された。また、議事に先立ち、
山田委員の紹介があった。

3) 審議事項

(1) 2013A 期 SPring-8 利用研究課題審査結果について

雨宮委員（SPring-8 利用研究課題審査委員会（PRC）委員長）から資料選 16-2 等によ
り報告があり、全応募数 711 課題に対して 489 課題を選定し、全体の選定率は 68.8%で
あったこと。前年同期と比較し 70%前後で推移していること。重点課題の選定方法の説
明と課題種別にみた選定率、個々のビームラインの選定率の説明があり、BL47XU、BL09XU
については以前より競争率が高い傾向が続き、今回は BL08W についても高くなったこと。
J-PARC との相補利用として SPring-8 において応募された 7 課題のうち 5 課題が採択さ
れたこと等の説明があった。

質問：今回の応募数は過去に比べ減っているのか。

回答：A期とB期では期間が違うので単純比較は出来ないが、前期 2012B と比較し応募数は減少したが、供給シフト数も少ないので選定率は減少している。同じA期である 2012A 期と比較した場合でも、供給シフト数が減った分、選定率は減少している。

質問：選定の方法で、各課題に割り振るシフト数はどのように決めているのか。

回答：原則、申請時の要求シフト数とその課題を実施するために適正であるかを PRC の審査の前にビームラインスタッフが判断し、推奨シフト数として評価する。選定時の評点が高い課題に多くのシフトを割り振っている訳ではない。

質問：元素戦略のプロジェクトが昨年ごろよりスタートしているが、これに係る課題は成果公開優先課題に含まれているのか。

回答：当該プロジェクトに係る重点利用枠の設定等はなく、利用者に課題種の選択は任せている。

意見：既に SPring-8 には多彩な課題種を設定して公募している。プロジェクトに係わる研究者がその実行に相応しい課題種を選択し応募することで事足りるのではないか。元素戦略で競争的資金を獲得している場合は、SPring-8 の成果公開優先利用課題に申請すると利用料は課金されるが、SPring-8 での審査を省略して実施することができる。

質問：今回 J-PARC と SPring-8 の相補利用については、試行的な実施で、一般課題等で申請内容にその旨を明記するだけだったが、今後の目標や最終的な展望はどうなっているのか。

回答：将来的には重点化等していくのが理想と思うが、J-PARC 側のリソースが限定されていること等も踏まえ、当面、現行制度で継続していく。将来的に光源の出力が増強されれば利用枠も拡大すると思われるので、継続的に J-PARC 側と協議していくこととしている。

まとめ：2013A 期の選定課題については、利用研究課題審査委員会の審査結果どおり了解することとした。また、今後も個別のビームラインで選定率の低いものは継続的にチェックし、本委員会で必要な議論していくこととなった。

(2) 2013B 期 SPring-8 利用研究課題の募集及び選定について

野田常務理事から資料選 16-3 により、2013B 期に募集する課題の種類、選定基準、審査方法等については、前期 2013A 期と変更ないことの説明があった。また引き続き、中性子施設 J-PARC MFL との相補利用課題の募集も継続することの説明があった。

質問：課題種の中で長期利用課題とパワーユーザー課題の違いは何か。

回答：パワーユーザー課題は、別途選定されたパワーユーザーが、その担当するビームラインの 20% を上限に課題を実施する。パワーユーザーの職務としては自身の研究の他、担当ビームラインで装置を高度化し、他の利用者支援を実施する。選定はパワーユーザー審査委員会で行っており、指定期間は 5 年。後でも報告があるが途中で中間評価を実施している。

意見：本来スタッフが行う装置高度化や利用者支援をスタッフと同等以上のスキルを持ったユーザーがパワーユーザーとなって実施する制度なので、長期課題とは位置づけが違う。現在 7 件あるが、概ねうまくいっている。中間評価等で改善すべき内容があれば指摘し、改善を要求している。

質問：J-PARC は同じ量子ビーム利用という意味で相補利用し易いと思うが、スパコン京との相補利用については何か検討しているか。

回答：スパコン京は 1 年先まで利用が決まっている状態で、相補利用の検討は始めているが先方の登録機関 RIST のスタッフ支援体制やデータ転送のインターフェイス部分の仕様の取り決め等課題は多い状況。実際 SPring-8 や SACLA の実験データを京で解析するという需要はあるので、それらの障壁をクリアしていきたいと考えている。

質問：測定代行の利用はどのぐらいあるのか。

回答：具体的な課題数は調べてないが、每期終了前には空きが無くなるほど利用が増えてきている。利用者も産業界だけでなく、研究機関や大学の方も利用している。新た

に BL46XU で光電子分光と薄膜評価の測定代行も始めたのでその利用者も増加すると思われる。

まとめ:2013B 期の SPring-8 利用研究課題の募集および選定について、SPring-8 と J-PARC MLF 施設を相補利用する課題の取扱を含めて承認することとした。

(3) 広エネルギー帯域先端材料解析ビームライン及び兵庫県 ID ビームラインの中間評価の評価結果について

専用施設審査委員会委員長の代理で坂田委員から資料選 16-4 により、物質・材料研究機構 (NIMS) が設置した広エネルギー帯域先端材料解析ビームライン (BL15XU) 及び兵庫県が設置した兵庫県 ID ビームライン (BL24XU) の中間評価の評価結果の説明があった。

質問: NIMS の中間評価で機構全体の計画とのマッチングや戦略的な利用の促進というのは、例えば東大の専用施設に当てはめてみても、東大全体としての計画はなく、そのマッチングと言われても難しいと思われるがどのような意図なのか。

回答: 専用施設審査委員会での以前の評価の時から NIMS 全体としての位置づけや戦略性について指摘があり、今回の NIMS 側のプレゼンの報告でも、播磨の現地スタッフからは個々の装置の高度化や成果の報告があったが、上記指摘についての回答が希薄であったので、このような報告書になった。ビームラインの運営自体は前回の評価時と比べると随分良くなったとの印象であるが、まだ機構全体としての位置づけが明確ではないので次回の評価までの期間を短く設定し、再度評価することとした。

まとめ: 双方の専用施設とも専用施設審査委員会が纏めた中間評価結果報告書に記載のとおり承認することとした。

(4) 革新型蓄電池先端科学基礎研究ビームラインの変更専用施設設置実行計画書の審査結果について

坂田委員から資料選 16-5 により、京都大学が設置した革新型蓄電池先端科学基礎研究ビームライン (BL28XU) の変更専用施設設置実行計画書の審査結果及び専門部会から専用施設審査委員会への審査の在り方についての提言の説明があった。

補足: 野田常務理事より当該提言についての JASRI としての対応案の説明があり、専用施設審査委員会には e-mail 審議で承認、各専用施設設置者へも補足説明済みである旨、報告された。

まとめ: 専用施設審査委員会専門部会が纏めた BL28XU の変更専用施設設置実行計画書の審査結果を承認することとした。また、専用施設における変更・改造を専用施設審査委員会で審査する場合の判断基準及び方法については、一部 HP への掲載文言の加筆意見があった。

(5) サンビーム ID ビームラインの改造計画の審査結果について

坂田委員から資料選 16-6 により、産業用専用ビームライン建設利用共同体が設置したサンビーム ID ビームライン (BL16XU) の改造計画について、上記判断基準に則り書面審議を実施し、その審査結果について説明があった。

まとめ: 専用施設審査委員会が纏めた BL16XU の改造計画書の審査結果を承認することとした。

4) 報告事項

(1) 第 29 回利用期 (2012A) における特定放射光施設のうち研究者等の共用に供する部分の利用実績について

野田常務理事より資料選 16-7 により、2012A 期の利用実績についての説明があった。

意見: 報告書に記載している 3 つの研究課題別にリスト化している個々の課題の内訳とビームライン別・課題種別に整理した表との関係が判り難い。個々の課題でどれが一般課題なのか判らない。特にインハウス課題は PRC を経由しないのでこのリストで始めて見ることになるが、区分を表示してもらいたい。

回答：文科省への届出上は、区分することまで必要としないが、委員より要望があるのなら次回から対応したいと思う。

(2) パワーユーザーの中間評価の結果について

パワーユーザー審査委員会委員長である水木委員から資料選 16-8 により、22 年度指定のパワーユーザー中間評価の結果について報告があった。

5) その他

その他、以下の意見等があった。

意見：本選定委員会で利用研究課題の審議を行う場合、PRC で審査した課題種のみでは全体の状況が判らない。事後でも良いから全課題の状況が判るような報告を要望する。

回答：次回より、上記要望に応えるような報告を行いたい。

最後に、JASRI 白川理事長より、今期の選定委員会はこの 3 月末で 2 年間の任期の終了を迎えることについて委員長並びに各委員にお礼の挨拶があった。また、次期選定委員会については SACL A がまだ黎明期であり、個別の審議事項が想定されるので、今期同様 SPring-8 と SACL A の 2 つの選定委員会を設置することの報告があった。

6) 閉 会

以 上